

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	高島市児童発達支援センター「エール」（カンガルー教室）			
○保護者評価実施期間	R 6年11月11日 ～ R 6年11月29日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	26
○従業者評価実施期間	R 6年11月11日 ～ R 6年11月29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	R 7年2月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1対1の個別支援を行っている	・全体で行う活動だけでなく、担当と1対1で活動をする時間を設定し、一人一人に合わせた方法で支援している ・その子のペースに合わせた支援を行うとともに、いろいろな場面でこどもの自発的な参加を促し、こどもが手ごたえを感じられる経験が詰めるよう繰り返し行う ・こどもが「やってみよう」という気持ちを持てるように、一緒にして楽しんだり、して見せて安心感をもって取組めるようにしたり、こどもとの信頼関係のもと、スモールステップを大切にしながら、挑戦できる機会を持つ ・保護者に寄り添う関わりを行い、信頼関係の構築に努めている ・意識的に自己研鑽に励んでいる ・心理士など他のセラピストとともに支援している ・カンファレンスで、他の指導員と児の様子を共有している。 ・個々の利用児について、計画的に園訪問を実施している。	・児の担当指導員だけでなく、他の指導員の視点を取り入れられるよう運営上の工夫を行う ・事例検討会を行う ・自己研鑽を継続する
2	保護者支援を充実させている	・保護者同士のグループカウンセリングを実施している ・毎回の療育終了後に、保護者と指導員の懇談の場を持っている ・親子遊びをプログラムに取り入れ、実際の場面を通して子どもへの接し方や遊び方を、保護者と共有し支援している。	・グループカウンセリングについては、保護者のニーズを把握し、心理士だけでなく指導員とも協力して内容を検討する ・保護者個人個人に応じた懇談の在り方を検討し、実施する
3	適度な少人数でクラスが編成され、園ではできないことができる環境である	・同じ発達特性や発達段階、病気、年齢など子どもの状況に応じてクラス編成している ・保護者の気持ちなどの状況も併せて、クラスを編成している	・児童発達支援管理責任者や療育指導員など療育に携わる職員で協議しクラス編成を行う

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・療育修了後のフォロー体制の充実化	事業所として療育に通所されるお子さんについて、原則ではあるが修了の基準を持っている。特に年長児は、園の行事が多く出席率が落ちることから、年中までに療育を修了していただくことを原則としている。発達相談や園巡回等個々の支援は継続して行っているが、保護者や園にとっては十分であるとは言い難い状況がある。	・修了の基準の考え方については、今後も課題として検討を続ける。 ・終了後のフォローについては、保護者のご意見を伺いながら検討し、工夫しながら実施する。